

特集

食品安全委員会が新たな体制でスタート 委員のご紹介



食品安全委員会の委員7名のうち6名の任期満了に伴い、本年(平成27年)7月1日付けで、新任委員2名を含む6名の委員が任命され、委員の互選により佐藤洋委員が委員長に選出されました。新たな体制で始動した食品安全委員会の委員をご紹介します。

委員長

さ と う ひろし

佐藤 洋 公衆衛生学の分野



昭和49年東北大学医学部卒業、昭和54年同大学大学院医学研究科博士課程修了(医学博士)。平成24年7月より食品安全委員会委員。平成27年7月より食品安全委員会委員長。

佐藤洋委員長は、「環境汚染物質の人体への影響」等の研究の実績を活かし、食品安全委員会においては専門の公衆衛生学の分野を中心に、委員会の設立当初より汚染物質専門調査会の座長を務める等、メチル水銀やカドミウム等の評価を担当してきました。

佐藤委員長より一言

新たな評価方法検討と リスクコミュニケーションの推進

食品安全委員会は設立以来12年間、国民の皆様の健康の保護を最優先にして、科学的知見に基づき、中立公正な立場からリスク評価を着実に実施してきました。一方で、本年度より委員会組織に評価技術企画室を新設するなど、評価方法について新たな歩みを進めています。例えば、香料のように非常に微量使われるものについては、評価方法の変更が国際的にも求められてきており、具体的な検討を進めています。

今後は、科学の進歩に沿った新たな評価方法の研究開発とともに、様々な手段を通じた情報発信や意見交換会の開催等、さらなるリスクコミュニケーションを推進してまいります。

委員長代理

やま ぞえ やすし
山添 康

化学物質(有機化学)の分野



昭和46年大阪大学薬学部卒業、昭和48年同大学大学院薬学研究科修士課程修了(薬学博士)。平成24年7月より食品安全委員会委員。

委員長代理に指名された山添康委員は、大学院修了後に製薬企業の研究所に勤め、その後は大学の医学部・薬学部、米国食品医薬品庁(FDA)等において、一貫して薬理学及び生化学を中心とした分野に携わってきました。

.....【山添委員長代理より一言】.....

評価の「質」と「分かりやすさ」の両立を目指して

食品安全委員会の設立当初より、器具・容器包装専門調査会座長、添加物専門調査会の座長代理を務め、その後新開発食品専門調査会座長、放射性物質のワーキンググループ座長等としても評価にあたってきました。

科学的評価を行う機関として、食品安全に関する評価の「質」と「分かりやすさ」を食品安全委員会はどのように両立していくか。なかなか難しいことですが、マスコミの方々を含め、周囲の協力を得て、より質が高く、分かりやすい評価に努めていきたいと思っております。

委員

くま がい すすむ
熊谷 進

微生物学の分野



昭和44年東京大学農学部畜産獣医学科卒業、昭和49年同大学農学系大学院獣医学専門博士課程修了(農学博士)。東京大学名誉教授。平成23年1月より食品安全委員会委員。

熊谷進委員は、平成23年より3年間にわたり食品安全委員会委員長を務め、英文ジャーナル「Food Safety」の発刊、メディアの方々との定期的な意見交換、一般の方々へ分かりやすく食品安全の基礎を解説するリスクアナリシス講座の開催など、新しい企画も含めて積極的に委員会の活動を牽引してきました。

.....【熊谷委員より一言】.....

食品の安全確保に役立つことを願って

特に食中毒に関連した微生物を中心に、大学や研究所で食品衛生学や獣医公衆衛生学の分野の研究と教育に携わってきました。その経験を活かし、食品安全委員会では微生物を中心に、プリオンやかび毒などの評価を引き続き担当します。委員会での活動を通じて、食品の安全性の向上に貢献できることを願っています。

新任

委員

よし だ

吉田

みどり

緑

毒性学の分野



昭和54年鳥取大学農学部獣医学科卒業（獣医学博士）。平成19年9月より国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理第二室長。平成27年7月より食品安全委員会委員。

今回、新しく食品安全委員会委員に任命された吉田緑委員は、動物用医薬品や農薬等の化学物質の毒性学、特に毒性病理学の分野が専門です。

.....【吉田委員より一言】.....

分かりやすく伝えることを考えて

これまで、子どもの発達期への影響や、化学物質の発がん性のヒトへの外挿性などを研究テーマに取り組んできました。食品安全委員会では農薬専門調査会の専門委員として約12年間農薬を中心に携わり、FAOとWHOの合同の残留農薬専門家会議（JMPR）のメンバーでもあります。今後は委員会委員として、リスク評価の質とともに、どのようにすれば国民の皆様に分かっていただけるかを考えながら務めていきたいと考えています。

新任

委員

ほり ぐち

堀口

いつ こ

逸子

情報交流の分野



平成4年5月長崎大学歯学部卒業、平成8年8月同大学大学院医学研究科博士課程修了（医学博士）。平成25年9月より長崎大学准教授（現職）。平成27年7月より食品安全委員会委員。

今回新任の堀口逸子委員は、歯学部を卒業後、ヘルスコミュニケーションや健康教育の研究に携わるようになりました。現在はリスクコミュニケーションについて、心理学・社会学などの専門家とともに実践と研究を進行中です。

.....【堀口委員より一言】.....

リスクコミュニケーションの改善に向けて

食品安全委員会では、専門委員として、より適切かつ効果的なリスクコミュニケーションについて検討を進め、平成27年5月に、「食品の安全に関するリスクコミュニケーションのあり方に関する報告書」を、ワーキンググループ座長としてまとめました。食品安全委員会委員となった今後も報告書を実践すべく、リスクコミュニケーションの一層の向上に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

委員

[非常勤]

いし い

石井

かつ え

克枝

消費者意識の分野



昭和48年お茶の水女子大学家政学部卒業、昭和50年同大学大学院家政学研究所修士課程修了（農学博士）。平成15年4月より千葉大学教授。平成24年7月より食品安全委員会委員。平成27年9月より淑徳大学教授（現職）。

委員2期目となる石井克枝委員は、平成27年3月まで大学の家庭科教育の教師養成に、9月から管理栄養士養成にて、「調理において安全を確保し、おいしく健康的に食べる」ことを扱う調理学を担当しています。

.....【石井委員より一言】.....

リスクコミュニケーションがリスク評価の鍵

食品安全委員会委員1期目の3年間では、リスクを評価することの深みを理解するとともに、リスクコミュニケーションの難しさを実感しました。リスクコミュニケーションが進んでいかない限り、リスク評価は機能しないことから、今後は、リスクコミュニケーションにより一層力を注いでいきたいと思っています。

委員

[非常勤]

むら た

村田

まさ つね

容常

生産・流通システムの分野



昭和54年東京大学農学部農芸化学科卒業（農学博士）。平成16年4月よりお茶の水女子大学教授（現職）。平成21年7月より食品安全委員会委員。

村田容常委員は、農学部で農芸化学を専攻後、民間企業研究所勤務を経て大学に移り、約30年間にわたって食品加工、貯蔵学に関する研究に携わってきました。現在は食品製造保存学、食品微生物学について後進の育成にもあたっています。

.....【村田委員より一言】.....

食品の保存・流通・生産から安全性をみて

食品は成分を含め、常に変化しています。食品安全委員会では、食品の特徴や特質を踏まえつつ、特にその保存、流通、生産等の分野に関して客観的・科学的にみていくことを主に担当しています。これまでに行ったリスクアナリシス講座の経験を通して、リスクコミュニケーションの大変さを実感。他の委員とも協力して、より一層努力していきたいと考えています。